

## 第七号の刊行にあたって

東京大学史料の保存に関する委員会・紀要編集担当委員

阪口 豊

東京大学百年史編纂事業にとまない、東京大学の学術史・教育史・体制史に関する基礎的研究の成果を公表し、これを通じて将来の年史編纂の準備にあてるとともに、学術情報の交流に資することを目的として昭和五十三年に『東京大学史紀要』が創刊され、昭和六十一年度までに六冊の紀要が刊行された。百年史編纂事業は昭和六十一年度をもって終了し、東京大学百年史編集委員会は解散し、新たに東京大学史料の保存に関する委員会がつくられ、昭和六十二年四月二十一日には東京大学百年史編集室が発展的に解消し東京大学史料室が発足した。

これまでは本紀要の編集発行者は東京大学百年史編集室であったが、新体制に即応して、編集者を東京大学史料の保存に関する委員会とし、発行者を東京大学史料室とすることになった。また、本紀要の出版経費には従来は委任経理金（東京大学百年史の調査研究）が当てられてきたが、昭和六十三年度より校費（学内共通経費）による予算措置が取られることになった。

新体制下の紀要においては、当分の間、基本的には従来 of 体裁を踏襲し、史料の保存に関する委員会委員、同委員の紹介者、史料室の室員の寄稿を中心に編集することとし、第七号の刊行をみるに至った。

史料の保存に関する委員会は「東京大学史料センター」（仮称）の創設をめざして、その実現に向けて努力を傾けている。本紀要がその実現のための原動力の一つとなり、やがて同センターの紀要として引継がれることの近からんことを切に願ってやまない。